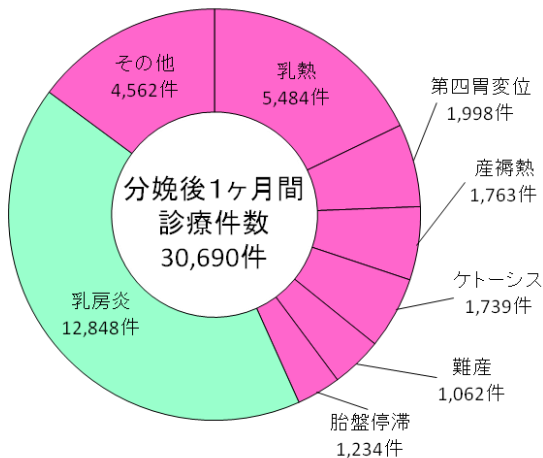


新たな乳房炎予防技術による乳生産性および健全性向上技術の開発(H29~32)

現状

- ・泌乳能力の向上+泌乳持続性
⇒乾乳前でも20kg/日を超える乳量
- ・分娩前後の周産期病や分娩後の乳房炎の増加が供用年数短縮の要因
(平均除籍産次 現状 3.1産 全国ワースト8位)



分娩後1カ月間の診療件数及び病名 (H19.1~H22.8)
(釧路総合振興局調べ)

- ・分娩前後の乳房炎は、次乳期の乳生産や健全性に影響を及ぼす(とくに成長中の初産牛)
- ・乾乳開始時に乳量が20kg/日以上あると分娩時に乳房炎に感染するリスクが高くなる
- ・乾乳期用乳房炎軟膏(抗生物質)の休薬期間は30日あるいは50F



課題

分娩後の乳牛の健全性・
抗病性の向上

研究内容

植物(梅、らっきょう)抽出物を用いた乳房炎
予防技術の検討、予防効果の検証



抗生物質を使用しない乳房炎発生の低減

1. 開発のための検討(H29-30年度)

- ・植物由来ディッピング剤の作出
- ・乳房炎起因菌(黄色ブドウ球菌、大腸菌
および連鎖球菌)への殺菌効果の検証



2. 効果検証のための検討(H31-32年度)

- ・乳頭への付着効果(展着剤)の検討
- ・乳房内への浸透効果(乳化剤)の検討



研究目標

1. 乳房炎の発生抑制
体細胞数減の牛の割合 50%以上
2. 分娩後の疾病における乳房炎治療費の削減 50%以上
3. 安全な畜産物の提供



期待される効果

生涯生産性の向上と低コスト生産の両立

- ・搾乳牛1頭あたりの所得増加
約10万円/頭(県全体で約1億円)

- ・乳代収入の増加 3.0万円/頭
- ・配合飼料の削減 0.5万円/頭
- ・治療費の低減 3.5万円/頭
- ・供用年数の延長 2.5万円/頭

